

河川におけるアマゴ稚魚の放流適期の検討

氏家宗二・片岡佳孝

◆背景・目的

河川漁業におけるアマゴの稚魚放流には、秋放流と春放流がある。本調査で、春放流を検討する前段階として、現在行われている秋放流の生残率や分散、成長について検討した。

◆成果の内容・特徴

- ・犬上川水系二瀬川での放流魚と天然魚の採捕調査結果か、放流アマゴの2ヶ月後の生残率は41.5%であった。
- ・放流アマゴの調査期間中での成長は認められなかった。
- ・放流魚は放流地点より下流域にのみ分散していた。
- ・調査区の先住アマゴの生息数は239尾で、生息密度は2.5尾/10㎡と推定された。

◆成果の活用・留意点

本調査では、秋放流のアマゴ稚魚の下流域への分散が示唆されたことから、放流場所等について検討することが必要である。

調査日別の採捕数と平均体型

採捕月日	放流アマゴ			天然アマゴ			備 考
	個体数	体長cm	体重g	個体数	体長cm	体重g	
平成19年9月18日				80	8.89	14.02	放流前先住魚調査
10月12日	50	10.00	15.96				放流魚130尾放流
12月10日	34	9.65	12.08	134	9.22	12.58	資源量推定
12月13日	27(17)	9.67	12.57	109(61)	8.08	11.71	(再採捕魚内数)
平成20年2月8日	24	9.85	13.42	87	9.88	14.87	解禁前調査